

投手の 12 秒及び 20 秒ルールおよびバッターボックスルールの取り扱い基準

1、12 秒及び 20 秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には 12 秒以内、走者がいる場合には 20 秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20 秒の計測をリセットする。

計測

計測は二塁塁審がストップウォッチを持って行う。(3 人制は三塁塁審)

12 秒ルールの適用

- (1) 走者がいない場合に適用する。
- (2) 12 秒の計測は投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入り、投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。
- (3) 12 秒を経過したとき、(13 秒になったとき)、二塁塁審(三塁塁審)は「タイム」を宣告し、12 秒が経過したことを知らせる。
- (4) 二塁塁審(三塁塁審)のタイム宣告と同時にボールデッドとなる。
- (5) 二塁塁審の(三塁塁審)の知らせを受けた球審は“ボール”を宣告する。
- (6) タイムの宣告にもかかわらず、投手が投球した以後のプレイは無効とする。

20 秒ルールの適用

- (1) 走者がいるときに適用する。
- (2) 20 秒の計測は、次の時に始まり、いずれの場合も投手が投球動作を開始したときに終わる。
 - A) イニングが始まるときやボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。
 - B) ボールインプレイの状態、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッタースボックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入り、投手に面したとき。
 - C) ボールインプレーの状態、打者がバッターボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手からボールを受け取り、打者に面したとき。
- (3) 20 秒を経過したとき(21 秒になったとき)、二塁塁審(三塁塁審)は「タイム」を宣告し、20 秒が経過したことを知らせる。
- (4) 二塁塁審(三塁塁審)のタイム宣告と同時にボールデッドとなる。
- (5) 二塁塁審の(三塁塁審)の知らせを受けた球審は“ボール”を宣告する。
- (6) タイムの宣告にもかかわらず、投手が投球した以後のプレイは無効とする。

※投手板をはずしたときや偽投のときは、計測を継続する。

※送りバントのケースなど、捕手が内野手にサインを出している間も、計測は継続する。

2、バッターボックスルール

(1) 打者は打撃姿勢をとった後は、次の場合を除き、少なくとも一方の足をバッターボックス内に置いていなければならない。この場合は、打者はバッターボックスを離れてもよいが、“ホームプレートを囲む土の部分”を出てはいけない。

- 1) 打者が投球に対してバットを振った場合
- 2) チェックスイングが塁審にリクエストされた場合
- 3) 打者が投球を避けてバランスを崩すか、バッターボックスの外に出ざるを得なかった場合。
- 4) いずれかのチームのメンバーが“タイム”を要求し認められた場合。
- 5) 守備側のプレイヤーがいずれかの塁で走者に対するプレイを企てた場合
- 6) 打者がバントをするふりをした場合。
- 7) 暴投または捕逸が発生した場合
- 8) 投手がボールを受け取った後マウンドの土の部分離れた場合。
- 9) 捕手が守備のためのシグナルを送るためキャッチャーボックスを離れた場合。

(2) 打者は、次の目的で“タイム”が宣告されたときは、バッターボックスおよび“ホームプレートを囲む土の部分”を離れることができる。

- 1) 負傷または負傷の可能性がある場合
- 2) プレーヤーの交代
- 3) いずれかのチームの協議

(3) ペナルティ (1)・(2)

打者が意図的にバッターボックスを離れてプレイを遅らせ、かつ(1)に1)～9)の例外規定に該当しない場合、または、打者が意図的に“ホームプレートを囲む土の部分”を離れてプレイを遅らせ、かつ(2)1)～3)に例外規定に該当しない場合、球審は、その試合で2度までの違反に対しては警告を与え、3度目からは投手の投球を待たずにストライクを宣告する。この場合はボールデッドである。

もし、打者がバッターボックスまたは“ホームプレートを囲む土の部分”の外にとどまり、さらにプレイを遅延させた場合、球審は投手の投球を待たず、再びストライクを宣告する。

なお、球審は、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい姿勢をとるための適宜な時間を認める。(規則 5.04 b (4)(A)、同(B))